



福祉施設対策委員会 ニューズ

No2012-07
2013年
4月26日



鉚路さかえ保育園

組合員の増員にも繋げたい

さかえ保育園では、3年前の結成より組合員6名で活動してきました。組合員6名は全員が正規職員で、嘱託・臨時・パート職員はいません。現状では、正規職員以外を組合に入れるという事は正規職員への道が断たれる・・・可能性が大きく、勧誘が難しいです。団交では毎回、正規職員の増員を要求し続けています。しかし、園長からの回答は『職員の頭数は足りている、正職は給料が高いから・・・』、『定員割れで財政が厳しい』というものでした。昨年産休に入った保育士の正規職員が1名いた為、4月から1名は正規職員に採用されると期待していましたが、やはり来年度も大幅な定員割れでスタートとなるので、正規職員の採用は見送られてしまいました。これからもめげることなく要求し続け、組合員の増員にも繋げていきたいと思っております!!

危機管理の徹底を

未曾有の災害、3・11東日本大震災から2年が経ちました。あの日は当園も大きな揺れに見舞われ、園外へ避難する最中に津波警報のサイレンが鳴り響いていた事は忘れられません。しかし、冬場は雪や氷で路面が凍結している為、園外への訓練をしたことはありませんでした。大震災の日は3月とはいえ、北海道はまだまだ寒く、路面もツルツルでした。避難車を押していくことは難しく、1歳児も自分の足で非常階段を降り、凍結した路面を歩いて向かいのビルへと避難しました。当園は2階建てで0-2歳の子ども達は2階で保育しています。2階からの避難はベランダから通じる非常階段が1ヶ所しかなく、50人近い子ども達が一齐に避難することになり、とても危険です。以前のように津波警報が発令された場合も避難するまでに時間がとてもかかります。子どもの命を預かる保育園は危機管理を徹底しなければなりません。大震災後、園長も危機管理については大きな反省点と課題を知ったはずでした・・・

今年度、当園では北海道の補助を受け、大がかりな工事を行いました。しかし、工事の内容は「危機管理」や「子どもの保育」には直接関わらない部分が大きかったです。これまで組合から危機管理についての要求をすることはありませんでしたが、いざという時に命を守る為にも「危機管理の徹底!」を要求しなければいけないと感じています。



2/17本社労使協議会報告③

4. 各単組(施設)の課題について

大手前整肢学園では去年成立した障害者総合支援法に関係し通園部門を廃止すると提案があった。保護者からも反対があり、撤回になった。27年まで猶予があるのに、何故早急にしようとしたのか訴えました。本社は、早急の廃止は否定しましたが、27年以降は様子見として、廃止自体を否定しませんでした。

5月は子供の家の掲載を予定しています。